

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2026年5月27日（第2版）

承認番号	25185
課題名	デュピルマブ誘発性乾癬様皮疹に関する研究
研究期間	実施許可日～ 2028 年 3 月 31 日
研究の対象	2018 年 4 月～2025 年 12 月に当院皮膚科でデュピルマブ誘発性乾癬様皮疹と診断した方、ならびに尋常性乾癬あるいはアトピー性皮膚炎と診断した方
利用する試料・情報の種類	■診療情報（詳細：①患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、家族歴、既往歴、薬剤歴、生活歴、②疾患情報：疾患名、皮膚症状、罹患皮膚面積、合併症、治療経過、③血液検査結果：尿検査、白血球数、白血球分画、血小板数、クレアチニンキナーゼ、肝機能、腎機能、血糖、抗核抗体、抗 dsDNA 抗体などの疾患特異的自己抗体、血清補体値、β-D グルカンなど、④臨床画像情報、皮膚病理組織所見など） ■手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：皮膚） ☐血液 ☐その他（ ）
利用予定日	開始日：実施許可日から1ヵ月後
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	デュピルマブは、アトピー性皮膚炎・結節性痒疹・特発性慢性蕁麻疹・気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に適応のある生物学的製剤であり、皮膚科をはじめ様々な診療科で広く使われています。最近、デュピルマブを投与した患者さんに乾癬様皮疹が出現することが報告されており、詳細な機序は不明ですがこの皮疹が原因でデュピルマブ投与が中止となる患者さんもいます。本研究では、デュピルマブにより誘発された乾癬様皮疹部皮膚と通常の尋常性乾癬およびアトピー性皮膚炎皮疹部皮膚を免疫染色という手法を使って比較・検討し、デュピルマブ投与で発症した乾癬様皮疹の機序の解明につなげることを目的としており、必要なデュピルマブ治療を中止しないために意義のある研究だと考えています。
研究の方法	2018 年 4 月～2025 年 12 月に当院皮膚科でデュピルマブ誘発性乾癬様皮疹と診断した方、ならびに尋常性乾癬あるいはアトピー性皮膚炎と診断した方の既存の皮膚病理組織検体を使用し、免疫染色（hBD2、LL37、IFN、IL-4、IL-13、IL-17、IL-22、IL-23、IL-36 および各々の受容体）を行います。
その他	特にありません
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

	また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所在地：北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学 所 属：皮膚科学講座 電 話：0166-68-2523（医局直通） 研究責任者： 旭川医科大学皮膚科学講座 野崎尋意
--	---